61

中国伝統医学と道教（第31回　道蔵）

吉元　昭治
吉元医院

道教の経典を集め，仏教の「大蔵経」に相当したものを「道蔵」という．道教を研究するうえに欠かせない第一級資料である．ところが歴史的，時間的の経過と共に数回，編纂があって現存するものでも数種ある．今回はこれらについてふれたいとおもう．

古いものからすでに失伝しているものに，「三洞経書」（南宋明帝，陸修静），「開元道蔵」（唐玄宗主導），「大宗天宮宝蔵」（宗真宗，張君房），「万寿道蔵」（宋徽宗主導），「大金玄都宝蔵」（金世宗，韋宗主導），「大元玄都宝蔵」（元太宗，宗徳方等）．

こうしてやっと現代において現存する道蔵が現われ，以後新らしい道蔵も刊行されるようになった．

1）「雲笈七籤」．北宋張君房の撰．全122巻「大宗天宮宝蔵」の精要部をとった．雲笈とは，天宮にある，つづらという意味．七籤とは，そこに秘められている七種の神書（道蔵分類の三洞四輔）のこと．「小道蔵」ともいわれ，次の「正統道蔵」が世に一般化される前の第一級資料であった．

2）「正統道蔵」．明の正統年間の正統10年（1445）に命により出来たもの．5305巻と，つづく「統道蔵」と併せて合計5485巻ある．分類を三洞四輔（三洞とは，洞真，洞玄，洞神をいい，四輔とは太玄，太平，太清，正一もいい，太玄部は洞真部，太平部は洞玄部，太清部は洞神部を，正一部だけは全てを輔佐するというもの．三洞の方が主で，四輔は副である．「正統道蔵」以後の道蔵にはこの分類法はとっていない）．しかし「道蔵」といえば一般的にこれをいう．

3）「道蔵輯要」．初め清の嘉慶年間（1796～1820）に蔣元庭が「道蔵」中より173種撰んで「道蔵輯要」と名付け，ついで賀竜驤が287種（うち114種は「正統道蔵」にはないもの）を加え，光緒32年（1906）四川省成都二仙庵から発刊した．内容の分類は28集に分けられ，これは二十八宿（角～軫）によっている．

4）「蔵外道書」．胡道静等が1994年，巴蜀出版から出版した合計36冊のもので，「正統道蔵」「道蔵輯要」にも未収のものがおさめられている．内容の分類は三洞四輔によらず11種に分けられ，この中の「攝要類」は医学関係から見て重要である．

5）「中華道蔵」．2004年，華夏出版社発刊，49冊．「正統道蔵」や，未収，旧抄本や刻本などをふくむ．内容分類は，三洞真経，四輔真経，道教論集，道法衆術，道教神儀，道史仙伝，目録索引となっていて，直接医学関係部分に乏しい．

なお総会では私蔵する以下のような道蔵類を示したい．

○正統道蔵．芸分印書館，60冊，民国66年（1977）．縮印版といわれ流通している．
○正統道蔵．中文出版，30冊，1986年．
○雲笈七籤．新文豊出版，3冊，民国62年（1973），2種．
○雲笈七籤．斉魯出版，1冊，1988年．
○道蔵輯要．新文豊出版，25冊，民国66年（1977）．
○蔵外道書．巴蜀出版，36冊，1994年．
○中華道蔵．華夏出版，49冊，2004年．
○以下私刊．「道典」24冊，1987年．「正統道蔵要録」7冊，「道蔵輯要，雲笈七籤要録」5冊，共に1985年．「道蔵医系経典目録―仮題」1冊（未刊）．
○その他，道蔵目録，索引，辞書，道教医学文献，「道蔵提要」「道蔵説畧」「道蔵源流考正統」等．